

## 労働力需給調整をめぐる農家および求職者の意向分析

坂本英美  
(九州沖縄農業研究センター)

Hidemi SAKAMOTO :  
Pulse Analysis of Demand and Supply Adjustment of Labor Force

### 1. はじめに

施設園芸作なかでも雇用の季節性が著しい作物の経営においては、個別確保だけでは労働力不足が生じるため、農協等の労働力需給調整による雇用確保支援が重要になっている。しかし、そのような支援が十分に効果をあげているとは必ずしもいえない。この支援のあり方を明らかにするために、農家と求職者の意向の検討を行った。作物としては雇用不足が著しいイチゴを、調査対象地としては無料職業紹介事業を行っている菊池農協管内をとりあげた。

### 2. 求職者の意向に対する求人農家の対応

求職者に重視する雇用条件をたずねた結果を項目の内容別分類で示すと、20～59歳層においては「都合の良い勤務時間への対応」「一定水準以上の賃金・手当」「周年雇用」の要望割合が、60歳以上層においては「知人・友人と同じ場所で働ける」ような「集いの場の機能確保」「職場の交通利便性」「屋内で働ける」等の「労働負担の軽減」に関する要望割合が高い。

この求職者が重視する各雇用条件に対して、農家側の対応が容易であると判断する割合をみると、60歳以上層の求職者の要望に対しては、対応が容易であると判断する農家割合が高い。しかし、20～59歳層の求職者の要望に対しては、「周年雇用」でわずか17%、「一定水準以上の賃金・手当」も24%、と低いことが明らかとなった。

### 3. 農協の無料職業紹介事業に対する満足度分析

求人農家が、農協の無料職業紹介事業から享受する利便性(機能)の14項目について、その機能を果たしているかどうかについて、そう思うか思わないかを4段階評価で質問した。その結果から「どちらか」というと「そう思う」「そう思う」を合計したものが全回答に占める割合を“満足度”とした。また、同じく機能の総合評価を4段階評価で質問し、その結果と、前記の個々の機能評価との相関を14項目それぞれについて計算し、“貢献度”とした(第1図)。

上記の“満足度”と“貢献度”(第1図の注を参照)の関係から改善が必要な項目は、改善が必要な順に、「迅速性」、「労働力の質」(「同じ人を再び雇用」「長期雇用の確保」「若年労働力の確保ができる」等)、「集中的な労働需要への対応」に関連する項目が特にあげられることが示された。

### 4. おわりに

以上のことから次のことが明らかになった。①20～59歳の若年層の要望事項への対応は、必ずしも充分ではない。②労働力需給調整組織の運営においては、「迅速性」「労働力の質」「集中的な労働需要への対応」の順で項目の改善が必要になる。

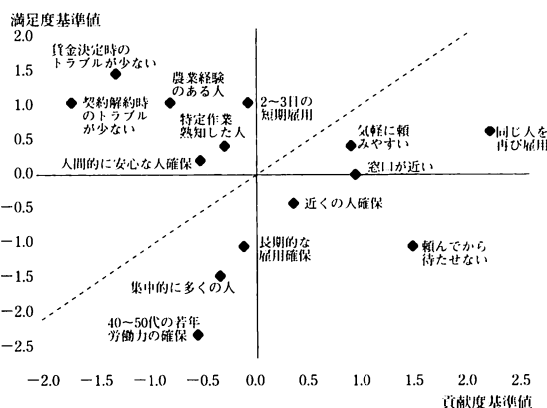
このうち前記①における若年層の「周年雇用」のニ-

ズの内容に関して、求職者のうち40～59歳層が望むのは必ずしも連続した就業日数ではない(15日/月以下の希望が44%)。したがって、農協が農家に対し、遊休農地の利用や作付作物の調整で15日/月程度の雇用を確保できるような指導が望まれる。

また、「一定水準以上の賃金・手当」のうち、「通勤手当」「トイレ・休憩室」に関しては、作付面積25a以上の農家では46%の人が対応は可能であると判断しているが、上記の手当て・施設の設置を農家へ促すような指導が重要であろう。

さらに、若年労働力を最も必要としているのは熟練した技術を要する「パック詰め」作業においてである。確保については2で示したようなネックがあるが、これを手選果共同施設等の設置により、ネックとなる条件のうち少なくとも「周年雇用」に近づけること(多作物・大量選荷を行う事等により農家個々の雇用ニーズの不安定さを薄める)の実現を図り、別個に確保する方策も考えられる。

前記②への対応策としては、担当者が本所から離れた各支所、あるいは集落座談会等にまで出向き、きめ細かくPR・募集活動をするなどして、求職者の応募を増やし、「迅速性」「集中的な労働力需要への対応」に応えることが考えられよう。



第1図 無料職業紹介事業の総合評価に対する各評価項目の貢献度と満足度の関係

- 注) a) 以下の満足度と貢献度の値を基準化した  
 満足度：機能に関する各評価項目で無料職業紹介についてどう思うかという選択肢として、思うか思わないかを4段階評価で質問し、「どちらか」というと「そう思う」「そう思う」を合計したものが全回答に占める割合  
 貢献度：無料職業紹介事業の総合評価を「悪い」～「良い」まで4段階評価で質問した回答結果と、各評価項目の回答結果との相関を示す独立係数  
 b) 各項目において貢献度の高さに伴った満足度に到達しているかとの観点で評価するCS(顧客満足度)分析のひとつ、点線から右側にある項目の改善が必要であることを示す、原点から右斜め下45度方向に距離が遠い程改善が必要な項目とみなす  
 c) [JA 無料職業紹介と雇用に関する意向調査] (01年 8月)